

ぼちぼちと、“私たちらしい営農スタイル”の実現

ぼちぼち農場(美幌町)



【組織等の概要】

- 代表者: 荒木 千夏さん
川野 美香さん
- 所在地: 北海道網走郡美幌町豊幌
- 主な農産物: トマト、アスパラガス、レタスなど
- 主な販売先: 首都圏のスーパーマーケット
オホーツク管内商業施設
美幌町ふるさと納税返礼品 など

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 大阪の会社で同僚だった2人は、朝から晩までオフィスにいるのではなく、四季の変化や一日のサイクルを感じながら過ごしたいと感じていたところ、旅行で訪れた北海道の大自然と農産物のおいしさに心動かされ、新規就農に関心を持った。
- ◆ 大阪で開催された新規就農フェアに参加後、北海道内で農業実習を重ねた。そして、美幌町での農業研修を経て、平成21年同町で新規就農し、野菜作を開始。
- ◆ 平成26年、上川農業試験場を訪問し液体肥料に塩を混ぜて栽培する「塩トマト」と出会う。トマトの味の概念を覆す濃厚な味わいに感動し、栽培を開始。オホーツクで唯一の「塩トマト」生産者となる。

【取り組む際に生じた課題等への対応】

- 目前の壁も新しい世界への挑戦と楽しみながら奮闘
→ 研修受入先が見つからずとも諦めることなく道内10カ所で畑作・酪農を実習。その後、美幌町にたどり着く。就農の意欲が伝わり、研修につながった。
→ 就農後、1棟1棟ビニールハウスを自ら建てるなど奮闘する姿に「そのうちやめるだろう」の声から応援の声に変わっていった。
- 丁寧な観察と分析で栽培方法を確立
→ 栽培管理が難しい「塩トマト」。使用している井戸水の成分や気候の影響で、既存のマニュアルでは収量が伸びなかった。丁寧な観察と栽培データの整理・分析を元に、養液の構成やは種・定植の時期などを検討し、農場のある美幌町の気候風土にあった栽培方法を確立。これが品質・収量の向上につながり、7段目の花芽まで収穫が可能になった。
- 限られた予算ながらも取り組んだブランディング
→ 自作のパンフレットを持っての営業回りやコンペサイトを活用してのラベルシール・ギフト箱のデザイン改良など、新規就農で潤沢に経費がない中でもブランディングに取り組んだ。

【取組の成果】

- 「塩トマト」ブランディングによる成果
→ ブランディングによる販売促進の努力が、継続的な契約先と契約量の確保につながり、栽培規模の拡大につながった。
平成27年 令和4年
〈ハウス棟数〉 1棟 11棟
→ 「塩トマト」が町の特産品として、ふるさと納税の返礼品に採用され、好評を得ている。
美幌町ふるさと納税サイト
<https://furusato-bihoro.jp/about/story-list/story-producer05/>
- 生産と収入の安定により実現した
“私たちらしい営農スタイル”
→ 営農が軌道に乗って、やっと、仕事だけで一日が終わるのではなく、「どういうライフスタイルにしたいか」自分らしい時間を2人で考えることができるようになった。さらに、経営が安定し、就農開始時に思い描いた営農とプライベートのバランスに近づき、12月～2月の農閑期は、旅をすることでいろいろな土地の文化に触れ、今後のアイデアを得る時間になっている。



【活用した支援施策】

- 新規就農定着促進事業(H21)
- 就農支援資金 など

【今後の展望】

- 農繁期は一日中作業に追われるため、ゆとりをもてるよう働き方改革や栽培規模を検討。
- 農業を軸に私たちらしく、他の事業(パン作り、加工など)も展開。